

高校闘争資料集（ビラ、新聞など）

<北海道、東北>

- ①北海道札幌東高等学校（1971年）
- ②北海道小樽潮陵高等学校（1971年）
- ③北海道富良野高等学校（1970年）
- ④宮城県仙台第一高等学校（1974年）
- ⑤福島県立会津高等学校（1969年）
- ⑥福島県立磐城高等学校（1971年）
- ⑦福島県立磐城女子高等学校（1971年）
- ⑧福島県立福島女子高等学校（1970年）

<関東>

- ⑨埼玉県立熊谷高等学校（1969年）
- ⑩千葉県立千葉高等学校（1969年＝千葉日報）
- ⑪千葉県立葉園台高等学校（1970年）
- ⑫東京都立青山高等学校（1970年）
- ⑬東京都立立川高等学校（1969年）
- ⑭東京都立文京高等学校（1969年）
- ⑮東京都立府中高等学校（1970年）
- ⑯東京都立神代高等学校（1970年）
- ⑰東京都立深沢高等学校（1972年）
- ⑱東京都立北高等学校（1969年）
- ⑲東京都立大森高等学校（1973年）
- ⑳東京都立南高等学校（1973年）
- ㉑東京都立目黒高等学校（1970年）
- ㉒都立大学附属高等学校（1972年）
- ㉓早稲田大学高等学院（1970年）
- ㉔神奈川県立横浜翠嵐高等学校（1969年）
- ㉕神奈川県立川崎高等学校（1970年）
- ㉖神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校（1969年）
- ㉗神奈川県立希望ヶ丘高等学校（1969年）
- ㉘神奈川県立小田原高等学校（1969年）

<北陸、甲信越、東海>

- ㉙新潟県立新潟高等学校（1969年＝新潟日報）
- ㉚新潟県立新発田高等学校（1970年）
- ㉛長野県長野高等学校（1969年＝信濃毎日）
- ㉜富山県立高岡高等学校（1969年）
- ㉝静岡県立静岡高等学校（1970年＝読売新聞静岡版）
- ㉞静岡県立掛川西高等学校（1969年）
- ㉟愛知県立旭丘高等学校（1969年）
- ㊱三重県立四日市高等学校（1969年）

<関西>

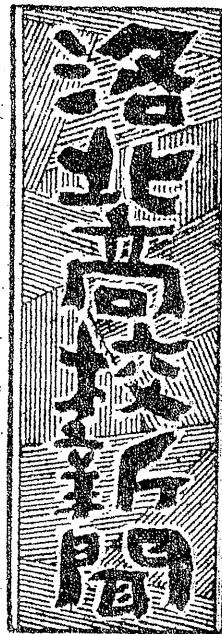
- ㊲京都府立鴨沂高等学校（1960年）
- ㊳京都府立洛北高等学校（1952年）
- ㊴大阪府立大手高等学校（1965年）
- ㊵大阪府立東淀川高等学校（1969年2月）
- ㊶大阪府立天王寺高等学校（1971年）
- ㊷大阪府立東淀川高等学校（1969年）
- ㊸大阪府立三国ヶ丘高等学校（1969年）
- ㊹兵庫県甲陽学院高等学校（1971年）

<中国、四国、九州、沖縄>

- ㊺鳥取県立由良育英高等学校（1970年4月）
- ㊻広島県広島学院高等学校（1969年）
- ㊼徳島市立高等学校（1970年）
- ㊽福岡県立小倉高等学校（1969年＝朝日新聞福岡版）
- ㊾長崎県立佐世保北高等学校（長崎新聞 1970年）
- ㊿琉球政府立首里高等学校（琉球新報 1970年）

高校闘争資料集

4 関西



京都府立洛北高等学校 新聞部 編集 印刷 電話 782520

号外



女子も交えてジグザグ 反対を押しして決行

阻止行動 安保一統

五月二十六日の安保阻止統一行動と提案し全一致で可決された。本校から、六十余人が参加した。

なれば生徒の秩序が乱れるから……との生連協の言に反して、一応妥協した」と報告した。

改定阻止後も問題残る

本校では、執行部、民主主義研究クラブを中心として、安保条約改定反対運動をくりひろげている。

互防衛

現行の安保条約には、約の期限というものはなく、いままのままで十年間継続して行くとされている。

安保こそ戦争の使者

われわれは、思想を離れた見地から、人類は一つであり、人類は精神的にも日々進歩しなければならぬ。

人類は一つだ

われわれは、思想を離れた見地から、人類は一つであり、人類は精神的にも日々進歩しなければならぬ。

京都府立洛北高等学校 (1960年)

印刷部 編集 印刷 電話 782520

卒業式に際して 高校教育をふり返れ

全ての池高生諸君

「自主防衛」の名のもとに、ますますアジア侵略体制を押し進めている日本帝国主義者達
は、そのさまざまな攻撃を、教育と名わず全之の我々の生活の中に入れてきている現在、言わゆる同志を
受けている我々高校生は、これに對して全く無自覚のままに、横りも不安の目も持たずにこのまま受け入れる
「良いのであろうか。

昨年、先進的学友達によつて「真の教育」を叫ばれてから一年余り、しかしそれによつて改変されたもの
は、備一つなく、権力の手先=教師達は、三八割廃止、突力テスト中止等という、無内容かつ超ギマン的態度で全
てを吸収しようとした。諸君が今、感じずにはいられない差別・選別・能力別等の侵略教育によるこの除外態
度この様子を、不安を、我々は一体どうすれば良いのか。未熟である事を理由に高校生の政治活動禁止と
なせる「府教委通達」、だがしかし、今現在我々が受けている高校教育=侵略教育こそ明らか日本帝の政治活動
命のであり、我々はかかる攻撃には自らの主体性を帯び、政治活動で抵抗していかなくてはならない。

この排外主義的、愛国主義的教育内容の改編と同じく、今日、吾等校には侵略教育の行政的攻撃が激烈にかけられ
てきており、まず第一に、教師に對する処分攻撃「聖職手当減額開示の思想」、に於いてによるイデオロギ
ー的系列化、そして生徒の自主活動の規制と処分攻撃として今日展開されてあり、こうした教師と生徒の分
断と様々な祭典と祝典（紀元節、卒業式、...）に對する国家主義的動員は、日を追つて急撃に進行しているの
である。我々は、今ここであの日本教職員組合が、聖職手当を受け入れた事により、労働者から聖職者
戦前の教員を戦場へ送り出した教師になりさかっているのだから、さりとせよく必要がある。

今や、教師は、真の労働者ではなく、権力の手先と化してあり我々は、彼らの愛国主義的排外主義植えこみ策
に断固立ち向、てゆかなければならない。

一体、差別を生み出したものは何であるのか、在日アジア人民、邦属民の血の叫びを我々は、いかに受け
取るのか、侵略教育を無自覚のままに受け入れている、我々高校生こそ、その排外主義の尖兵であるとい
う事を我々は、単なる反省だけに終わらさず、果敢に考えなければならぬ。

然るに、排外主義に転落してはならない。
三年生諸君、三年間の侵略教育の完了を、トルジョアジー劇みらの祝いである卒業式を、そのまゝ無自覚に
受け入れて良いのか。
全ての諸君、高校教育をふり返れ、利己主義から三無主義へ、そして排外主義を植えつけるこの侵略教育を
断固論破せよ。

侵略教育論破！
卒業式を無自覚に受けな！

<反戦高協池高支部>

41

41

天高新聞

発行所
大阪府東淀川区東旭町
天王寺高等学校
新聞部
電話 0318 番

明視メカネ
コンタクトレンズ
各種眼鏡指定
大阪視覚センター

服装の自由化実施

生徒心得を改正

身分表示はバンジで



一般参加多い

説 有効に使おう

部 桃陰記念室などを

大阪府立天王寺高等学校 (1971年)

卒業式を総決起集会へ

全川高生は高校生運動の最先頭に立ち 処分攻撃を粉碎せよ

全ての学友諸君！
 非正規化リケード斗争から全学無期限ストを闘い
 抜き、全大阪一全川の高校生運動の最先頭に立ち、
 不屈の進撃を開始した日全斗に対し、当局一府教委
 ならびに民言一反革命一体と偽、た狂気の政治処分
 攻撃を開始されている。ハク名の学友に對する処分
 を見よ！

なる攻撃に對し、日全斗はさらば強固な
 戦列を打ち固め、政治処分に對しては、政治斗争の
 先頭に立つことをもって応えるであらう。このこと
 を全ての学友諸君の前に宣言する。

またこの宣言の意義は重大である。
 すなわち、リケード通達粉碎バリケード斗争、無期
 限ストに至るまで、全ての学友諸君と共に
 打ち抜かれてきた東淀川斗争は、文部省一府教委
 一当局及び民言一反革命の最も恐れられた闘いであった。
 ハクケ月及び村動隊支配一常駐を見よ！

日全斗は過去6ヶ月にわたる闘いできたえら
 れ強くなった。我々は、断固として当局一府教委、
 民言の反革命に屈服することは許されぬ。

我々はすでに無期限ストにより1ヶ月も卒業式の
 延期を待ちどまっていた。いま一度、東淀川斗争の重
 みをし、再び全斗に受けとめようではないか。そ
 の重みとは、全川高校生運動の重みであり、従って
 我々の闘いにその一切がなかな、ていることを確認し、早急に
 強固な戦列を構築し、つてはよいな。

この東淀川高校にわいて、あるがにも卒業式を行なえるな
 のように夢想するを丹阿らと、それに、こび入つらう民言諸君
 のタロテヌク月思考に對し、卒業式を全学総決起集会に転化
 し、東淀川高斗争の更なる大爆発をなすべし。4、28全川高
 校ゼネストからの治安保潔戦へ攻撃するところまで、つてはよいな。

卒
 業
 式
 の
 大
 爆
 発
 で
 積
 年
 の
 う
 ら
 み
 を
 晴
 せ
 政
 治
 弾
 圧
 に
 対
 して
 政
 治
 闘
 争
 で
 心
 を
 全
 て
 の
 高
 校
 生
 は
 政
 治
 闘
 争
 に
 起
 る

全斗

卒業式を集会に転化し、4.28高校ゼネストへ

欺瞞的卒業式 & 断固粉碎

我々の卒業式自主管理貫徹

(三國丘高等学校卒業生会)

1969年4月1日、卒業式の日、我々卒業生は、
 学校側が主催する卒業式に反対し、自主管理の卒業式を
 実施した。これは、学校側が我々の意見を無視し、
 一方的に卒業式を進行させたことに抗議し、
 我々が主体的に卒業式を運営することを目的として、
 卒業生会が中心となって、自主管理の卒業式を
 実施した。これは、我々が卒業生として、
 学校に対して意見を述べ、自主的に卒業式を
 運営する権利を行使したことに由来する。

第4号

カン・エ・ラ・3

甲陽 反帝民主主義 共斗会評

甲陽反帝民主主義共斗会報告

共斗会評部 編集長 鈴木 隆

(1)

西者二面画としての共産
者イデオロギイのマンカリー
ンバもまたこのを得ない
女をも、我々の草場が我
我のいかさまの我道とい
ン・ソを我々のソ・ソ・ソ
未だソ・ソ・ソの三種の霹
起で我々が我々の我々の
れ、60年代半のソ・ソ・ソ
個別斗争の場(イデオロ
我々の我々の我々の我々の
と我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
増く、日本帝国主義イデオ
ロギイがソ・ソ・ソのソ・ソ・ソ
得勝一途のソ・ソ・ソのソ
的人民に我々の我々の我
れる由、70年代我々の我
我々の我々の我々の我々の
の我々の我々の我々の我
ソ・ソ・ソの我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の

(2)

半ソの我々の我々の我々の
のに我々の我々の我々の
イデオロギイの我々の我
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の

(3)

ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の

12・26の我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の

ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の
ソ・ソ・ソの我々の我々の
我々の我々の我々の我々の